



受講者の声を紹介します（指定研修）

教育相談コーディネーター養成研修講座

演習を通じ、教育相談は「選択を迫る場」ではなく、「可能性を広げる場」であるという認識が深まりました。（特別支援学校）

校内ケース会議のイメージが湧きました。他校の方々、専門家の意見を聞くことができ、非常に知見が深まりました。（高等学校）

子どもの強みや得意な所に注目し、ポジティブな視点でチーム支援をしていく大切さを学ぶことができました。（小・中学校）

通級指導教室 新担当教員研修講座

講義をしていただいた先生方の熱い思いが伝わってきました。

学習や生活において子どもが感じる不安や焦りを体験できる内容で、寄り添う態度の大切さを感じました。

具体的なお話や指導方法・教材の紹介をしていただけたことが特に良かったです。

英語教育中核教員育成研修

指導法を共有できただけでなく、目指すべき英語教育の形について、見解を共有することができました。

食に関する指導研修講座

講義を聴いて改めて食育の大切さを感じました。食事は生活の中でとても大切なものであるもので、学校教育の中でしっかりと指導していくことが重要であると思いました。

特別支援学級新担当教員研修講座

特性に応じた見取りや丁寧な指導の工夫、温かいお人柄、質問に対する極めて誠実なお答えなど、講師の先生の素晴らしさを感じた研修でした。

「多様な学びの場を選択するという考え方をすると支援学級は最先端の場所となる」と心に留めておきたいと思いました。大変なことも多いですが、誇りを持って子どもたちと接していきたいです。

特別支援学校への人事交流教員研修講座

専門職の方々のお話が聞けて、子どもたちに対しての接し方や気を付けること、行動のその裏を見る視点を知ることができ、興味深かったです。（小・中学校）

協議の中で同じ校種の先生方と話し合うことで、インクルーシブ教育実践推進校に戻った時の自分の役割を考えることができました。（高等学校）



【資料展示の御案内】第2弾

教育図書室・教育史編纂事務局共同展示～戦後80年昭和100年企画～

「教科書の歴史を知らう」「教育史資料から見る戦後の神奈川の教育」

戦後80年の節目にあたり、『神奈川県教育史1945～1972 資料編』に掲載した資料のほか、学校資料や研究成果等を展示することにより、教育史の意義を周知し授業実践への活用等の促進を図るという趣旨の下、5階多目的室で展示を行っています。

センターだより82号（10月発行）には、「教科書の歴史を知らう」の展示内容を掲載しました。今号では、第2弾として、「教育史資料から見る戦後の神奈川の教育」について紹介します。

当センターが所蔵する教育映像資料「神奈川県教育史～終戦前後の小学校教育～」と「同～新制中学校発足のころ」の上映を、『神奈川県教育史1945～1972 資料編（上）』に採録した関連資料の拡大展示とともにを行っています。併せて関係する中学校の周年記念誌なども展示しており、文字資料からだけでは読み取れない事実を具体的に知ることができるようにしています。



↑5階多目的室で映像の上映も行っています。

5階多目的室へ
お越しください！
（開いていない場合は、
5階教育図書室にお声掛けください。）



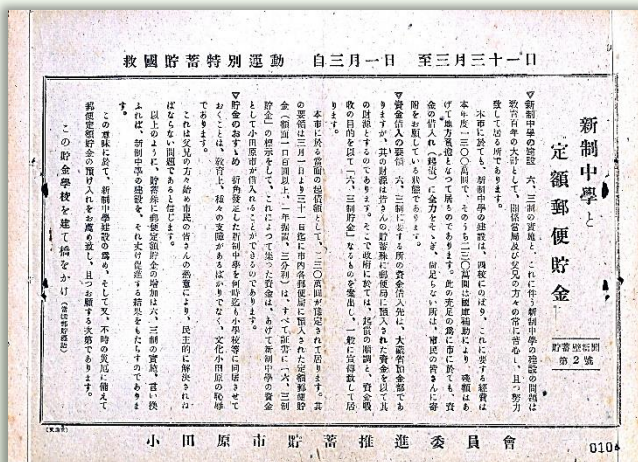
【展示物の一部を紹介します！】

○貯蓄推進運動のチラシ

市町村は、新制中学校の校舎建設や施設整備の財源捻出に苦慮していました。

そこで、市民に校舎建設のための郵便貯金を呼びかけ、それを市が借入れて資金とする「六・三制貯金」が推進されました。小田原市の場合、1948（昭和23）年3月に教育委員財政委員合同協議会が新制中学校建設資金の打合せを行い、貯金額（起債額）230万円を予定しました。資料のチラシは、貯蓄壁新聞第2号として印刷され、市内郵便局で「額面1口100円以上、1年据置、三分利」の定額貯金の勧誘を始めました。県内各地でも「六・三制貯金」が行われましたが、鎌倉市では目標の1割にも達せず、学校別目標額を示してさらに呼びかけたということです。

本資料は、教育史のウェブページ（下記二次元コード参照）からも御確認できます。



※貯蓄壁新聞は、『神奈川県教育史1945～1972 資料編（上）』第2部第1章第2節⑥（p519）に掲載。

※鎌倉市の状況については、『鎌倉教育史』（鎌倉市教育委員会 昭和49年3月発行）を参照。

- ◆展示時間 9:00～17:00（月～金曜）土日祝および年末年始は開室していません。
- ◆問合せ先 学校教育支援課学校支援班 電話 0466-81-1659(直通)

『神奈川県教育史 1945～1972 通史編』令和9年3月刊行予定

当センターでは、現在、令和9年3月の刊行に向けて、『神奈川県教育史 1945～1972 通史編』の編纂作業を行っています。

執筆に当たっては、既に刊行されている『神奈川県教育史 1945～1972 資料編（上）』及び『同（下）』のほか、県内の学校が作成した周年誌や記念誌、県及び市町村教育委員会が作成した資料等を活用し、本県の教育のあゆみや特色を分かりやすく伝えられるように努めています。

通史編は、旧教育制度（昭和20年8月頃から昭和22年頃まで）と新教育制度（昭和22年頃から昭和47年頃まで）の教育行財政や教職員、小学校、中学校、高等学校、保育・幼児教育、障害児教育、社会教育に関する内容をまとめ、刊行する予定です。

『神奈川県教育史 戦後編』に関する情報は、こちらから御確認できます。

